

子ども学科専門科目カリキュラムマップ(平成31年度入学生2年次科目)

ディプロマ・ポリシーに示す共通到達目標(学修成果)											
観点			到達目標(学修成果)								
1. いのちの平等、尊厳性への気づき			あらゆる存在が個人の価値観を超えて絶対的な尊厳性をもって存在することを理解している。								
2. 生かされていることへの感謝			生かされていることへの感謝の心を持ち、他を生かす活動を実践することができる。								
3. 倫理観			人として守り行うべき道について考え、それを実践することができる。								
4. 知識・技能			社会生活を営む上で必要な幅広い知識をもち、職業人として必要な技能を身につけ活用することができる。								
5. 論理的で柔軟な思考と判断力			先入観や既成観念等に縛られず、論理的かつ柔軟に思考し判断することができる。								
6. 自己表現力			自分の意見や考えを状況に応じた手段で適切に表現することができる。								
7. 主体的な行動力			責任感・使命感をもって主体的に行動することができる。								
8. 他者との協働力			社会を構成する一人の人間として、異なる価値観や背景を理解した上で連携・協働することができる。								
ディプロマ・ポリシーに示すこども学科到達目標(学修成果)											
観点			到達目標(学修成果)								
A. 倫理観			保育・幼児教育等の実践の場において必要とされる、人間の尊厳や人権を守ることができる倫理観を身につけている。								
B. 知識・技能			保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を修得し、現代の保育者として必要とされる基礎的な実践力を有している。								
C. 論理的で柔軟な思考と判断力			保育・幼児教育等の実践の場で関わる子どもや保護者、地域社会の抱える課題や要求に対して、論理的かつ柔軟に思考して判断することができる。								
D. 自己表現力			保育・幼児教育等の実践の場において、適切な手段を用いて他者に自分の意見や考えを表現することができる。								
E. 主体的な行動力			保育・幼児教育等の実践の場において、自らの課題を発見し、課題解決や目標の達成に向けて主体的に取り組むことができる。								
F. 他者との協働力			保育・幼児教育等の実践の場で関わる他者と連携・協働して物事に取り組むことができる。								
カテゴリー	授業科目	授業概要	科目の到達目標	到達目標(学修成果)の観点番号・記号							
				凡例 ◎ DP達成のために特に重要な目標 ○ DP達成のために重要な目標 (一つの到達目標に◎と○一つずつを原則とする)							
				1	2	3・A	4・B	5・C	6・D	7・E	8・F
教育・保育の基礎的理解	保育者論	本授業では、子どもの現状や制度などを概観した上で、保育者として求められる資質・能力や専門性などの保育者自身が備えるべきものや、保護者対応、外部機関との連携、保幼小連携など現代的な保育者の役割等についても理解する。	1.保育者とはどのような職業なのか説明できる 2.保育者が期待されている具体的な役割を説明できる 3.保育(者)をめぐる課題を具体的に説明できる			○	◎	○			
	発達学習心理学	人間発達の諸領域を理解しつつ、その発達と学習について学び、1年次で学習した心理学の発展的・実践的科目として位置づけられる。また子どもの発達や学びを支援する教材制作・プレゼンテーション等を通じ教育実践へ繋がる知見を獲得することをねらいとする。	1.心理学における「学習」に関する理論やメカニズムを理解する。 2.「発達」と「学習」の関係を理解する。 3.子どもにおける心身発達の概要を理解する。 4.上記3つの観点をふまえた、効果的な指導方法の具体化。				◎	○			
	子ども家庭支援の心理学	乳幼児期から老年期までの発達のな特徴を取り上げ、生涯発達について学び子どもの発達にとつて重要な役割を果たす家族、家庭について理解する。家族の様相は晩・非増化などの傾向や離・再婚、養子縁組などをめぐり多様化している。その中で子育て家庭の現状と子どもの生育環境への影響と課題について紹介し、精神保健についても解説する。そして子どもの発達において特別なニーズを必要とする家庭への支援の方法について考える。	1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。 2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達の的に理解し子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況及び子どもの生活環境と課題について理解する。 4.子どもの精神保健とその課題について学ぶ。	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○
	子ども家庭支援論	授業準備、授業、振り返りシート、グループワークを通して、教育・保育現場で状況に応じた適切な支援が行えるような実践力を養う。	1.保育士が行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解する。 2.子ども家庭支援の現状、課題について、理解を深める。 3.子育てで支家庭に対する支援の制度や関係機関との連携について理解する。 4.保育士として、家庭支援を行うための実践力を身につける。		○			◎			◎
					○						
							◎		○		
	保育内容ー健康	領域「健康」について要領および指針の理解と、生涯にわたり健康なからだづくりについて考えていく。また運動遊び、生活習慣、安全対策についての指導・援助の方法について学ぶ。	1.乳幼児教育における「健康」の位置づけ、領域「健康」のねらいおよび内容を理解する 2.乳幼児期の身体・運動発達と理想とする生活習慣を理解する 3.乳幼児期の発育発達の特徴を理解し、運動遊びや生活習慣の指導の工夫やあり方を理解する				◎	○			
	保育内容ー人間関係	園生活における様々な乳幼児の「人間関係」に関する知識、保育を通して子どもの人とかかわりについて学ぶ。また、その力を育むための保育者の実践的な援助の在り方について理解を深める。	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「人間関係」のねらいと内容を理解する。 2.乳幼児の様々な「人間関係」の育ちや芽生えについて、発達の観点から総合的に理解する。 3.幼稚園や保育園における人間関係の大切さや保育者の援助について理解する。				◎	○			
	保育内容ー表現	子どもの表現とその表現過程について、これまでの専門領域の学びを踏まえたグループ演習により探求し、領域「表現」における保育者の指導・援助について考える。具体的な子どもの表現事例検討や創造的保育実践を捉えることを通して保育を構想する方法を研究する。	1.領域「表現」のねらい及び内容について理解する。 2.子どもの表現活動を創造的に展開する実践力を身につける。 3.領域「表現」に応じた指導・援助法を修得する。				◎	○			
	教育・保育カリキュラム論	・幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基本として、教育課程・保育課程の意義を理解し、保育の現場における計画を理解する。 ・幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解のもと、教育課程・保育課程を理解し、各年齢に合った保育の計画を立案作成する。	1.カリキュラムの基礎理論を確認する。 2.長期・短期の指導計画の関係、指導計画の基本的な考え方・意義、カリキュラム・マネジメントの重要性について理解する。 3.子ども理解のもとに指導計画を立案・作成し、保育実践に活かす力を身につける。				◎	○			
	教育の方法と技術	教育実践方法の実践を通して教育の基本原理解を理解すること、制作した教材・教具を保育・教育に活かす方法や技術を再確認すること、今後広がっていくICT機器の現場における具体的活用方法を探る。	1.実践を通してその根底にある教育理論を説明することができる。 2.他者と協同し、教育に有用な教材・教具を仕上げることができる。 3.課題に対する自らの考えを主体的に表現することができる。					◎			○
教育・保育の発展的実践	子ども理解とカウンセリング	様々な状況にある子どもや保護者支援を行う際に必要となる心理的援助の考え方、方法、技術について、現実にとった様々な角度から考えていく。そのためには「自分を知る」ことも大切なことで、授業の中ではディスカッションやDVDを通して自分というものを振り返っていく。	1.カウンセリングマインドを培う 2.保育者としての視野を広げる 3.子どもや保護者の背景を理解しようと努めるようになる	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
			1.乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりについて理解する				◎	○			
							◎	○			

※旧保育の基本法や、子どもの発育・発達を踏

育の内容と方法	乳児保育演習	乳児保育の意義や子ども、子育ての乳児育・発達を促した生活や遊びの実際を知る。また乳児保育における配慮の実際を学ぶ。	2.乳児の生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する				◎	○			
			3.乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する				◎				○
	特別支援教育と障害児保育	心身に障害のある子どもの特徴と育ちについて解説する。事例を通して合理的配慮を意識した保育の仕方を考え、実践するための保育の技術や方法を、援助の実際を事例を通して理解する。また、障害のある児の発達を支える社会資源ならびにそれらの連携について解説する。	1. 様々な障害について理解する			○	◎				
			2. 障害に合った合理的配慮について考えることができるようになる				○	◎			
			3. 発達を促す適切な保育の技術を身につける						○	◎	
			4. 他機関との連携を意識した個別の支援計画を立てることができる							○	◎
	社会的養護の内容と方法	とすれば支援者主体にながちな児童家庭福祉の現場において、どうすれば当事者である児童(とその家族)を主体とした支援が展開できるのか、社会的養護の問題とそれに対する実践を通して考える。	1. 社会的養護の現状と課題を、事例を通して理解する。				◎	○			
			2. 児童家庭福祉における「自立」支援について理解することができる。		○						◎
			3. 社会的養護の今後について考えることができる。						○	◎	
	子育て支援	いろいろな子育て家庭の状況を理解し、授業やグループワーク、時間外学習等の中で具体的な支援の方法を考えたり、創ったり、体験したりして実践力を養う。	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する支援の視点から、考えたり、実践したりしてより良い親子のかかわりについて理解する。	◎				○			
			2. 様々な場や対象に即した支援の方法及び技術を実践やグループワーク、事例学習等を通して具体的に理解する。					○			◎
			3. 考えたことをいろいろな手段を用いて表現することができ、他者に分かりやすく伝えることができる。						◎	○	
	子どもと音楽Ⅰ	1年次「音楽表現技術Ⅰ・Ⅱ」での学習内容を踏まえ、保育実践のための技術・表現力・方法を習得する。一斉授業ではリズム楽器奏法や楽器遊びの方法を学び、実技レッスンでは子どものリズム活動や歌唱活動を支えるピアノ技能の習得を行う。	1.保育におけるリズム楽器の奏法と実践方法の習得				◎	◎			
			2.子どものリズム活動に活かせるピアノ奏法とアレンジ方法の習得				◎	○	◎	○	
			3.子どもの歌唱活動を支える弾き歌い技術習得とレパートリー拡充				◎		◎	○	
			4.音・音楽でイメージ豊かに表現ができること				○		◎	○	◎
	子どもと音楽Ⅱ	保育実践との関わりから子どもの歌唱活動やリズム活動を研究し、保育のための新たな楽器の可能性について探求する。実技レッスンではこれまでの学習を生かし、表現活動を創造的に展開するための歌唱およびピアノの技術を習得し、様々な楽曲のレパートリーを広げる。	1.子どものリズム活動に対応できるピアノ表現技術とアレンジ方法の習得				◎	○	◎		
			2.子どもの歌唱活動を上げる弾き歌い技術、歌唱表現力の習得				◎		◎		
			3.子どもの音楽表現活動を展開するための方法と技術を学ぶ				◎	○	○	◎	
	仏教保育	子どもの育ちで大事なことは、自尊感情であり、自己肯定感や知的好奇心、社会力など、子ども自らが学び、育つ力を伸ばし培うことであるが、その基盤となるものが仏教保育であることを学ぶ。	1.仏教の教えとまことの保育の関連を理解している。	◎	○						
			2.「生かされて生きている」いのちに目覚め、共に育ちあうことの大切さを知っている。		◎						○
			3.自分の価値観が普遍的でないことを知り、人として守り行うべき道について考え、それを実践することができる。			○		◎			
総合	ゼミナールⅡ-A	1年次ゼミナール授業を土台とし、保育や幼児教育に関する課題の研究を行う。少人数での演習形式を活かし、ディスカッションやグループワーク等、他者とのかかわりを通した学びにより保育者、社会人としての基礎能力習得を行う。	1.保育・幼児教育に関する課題研究に主体的に取り組むことができる。				◎			◎	
			2.課題の探求において、思考・判断・表現する力を高める。					◎	○		
			3.他者とのかかわりを通して、保育者、社会人としての基礎能力を身につける。				◎				◎
	ゼミナールⅡ-B	「ゼミナールⅡ-B」の発展科目として、保育や幼児教育に関する課題の研究と発表を行う。また、2年間の「総仕上げ期」でもあるため、社会に出る自覚を持ち、保育者、及び社会人として必要な基礎能力を高める。	1.保育・幼児教育に関する課題研究に主体的に取り組むことができる。				◎			◎	
			2.課題の探求において、思考・判断・表現する力を高め、他者に論理的に伝達できる。					◎	○		
			3.保育者、社会人になるための基礎能力を高め、自身の課題についても認識ができる。			◎					◎
	保育・教職実践演習(幼稚園)	これまでの学修の振り返り、自己の課題について省察する。 ・使命感、責任感や教育的愛情の涵養 ・社会性や対人関係能力の育成 ・現場実習、現職職員による講義、グループディスカッション、発表などを通して、保育のあり方についての考えを深める	1.これまでの学修の振り返りから自分なりの課題を把握できる。					◎		○	
			2.現代保育者の具体的実践力について理解し、最低限のものが身に付いている。					◎		○	
			3.協働的な取り組みや他者との交流を通して、保育実践や子どもの背景にある状況などへの視点をもち、考察することができる。							○	◎
教育・保育実習	教育実習指導(2)	教育実習の心得や望ましい実習態度について学ぶと同時に、実習にあたって幼稚園教育要領の理解、環境を通して行う教育、幼児理解、幼稚園教諭の職務等理解を深める。以上の目的において、日誌や計画の立案、振り返りについて学習する。	1.幼稚園教育の基本、目的、幼児の発達、園生活の流れ、幼稚園教諭の職務を理解する。				◎	○			
			2.教育実習の意義や目的を理解し、自己課題を明確にする。					○		◎	
			3.幼児教育者として保育観、教育観を構築する。				◎	○			
	教育実習Ⅱ	教育実習Ⅰの経験や学内で学習した内容を活かしながら、幼稚園における教育実践を体験することをねらいとする。また、幼児の実態に即した指導計画の作成・環境構成・指導の実際について体験を通して学び、反省と評価を繰り返しながら、幼稚園教育の実際を総合的に学ぶ。	1.教育実習Ⅰの学びを活かして、幼稚園教育の基本を理解する。				◎	○			
			2.幼児の発達や集団の特徴を踏まえ、環境構成及び援助の在り方を学ぶ。					◎		○	
			3.幼児一人一人の個性、特徴を理解した上で、計画の立案や活用方法を学び、活動を実践する。					◎	○		
			4.家庭や地域と連携を図りながら、幼児教育に携わる幼稚園の実態に触れる。					◎			○
			5.幼稚園教諭としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観を持つようになる。					○	◎		
教育・保育実習	保育実習Ⅰ(施設)	児童・利用者と生活を共にしながら生活・学習・遊び・療育の実態を知り、社会的養護の重要性を理解すると同時に、施設保育士としての実践的知識・技能を学ぶ。	1.施設の概要・機能について実践を通して理解し、社会的養護の実際について学ぶ。				◎			○	
			2.子ども(利用者)一人ひとりを理解しながら、援助・支援の在り方を体験的に学ぶ。			○		◎			
			3.施設保育士の専門性に触れながら、職務内容・役割・チームワークなどを理解し、施設養護及び養護内容への関心を高める。							○	◎
	保育実習指導Ⅰ-(2)	施設保育士としての実践的知識・技能を教授する。事前指導では実習における各自の学習内容や課題の明確化と既習内容を実践につなげる方法、必要な手続き等を、事後指導では実習から得られた課題を明確にするための指導を行う。	1.専門職としての保育士の自覚を高める			○		◎			
			2.施設保育士の役割と職務に関して学びを深める				◎		○		
			3.実習経験を言語化して整理し課題や今後の目標を見つける								◎
	保育実習Ⅱ	本実習では、保育実習Ⅰの経験や学内で学習した内容を活かしながら、保育所における保育実践を体験することをねらいとする。また、乳幼児の実態に即した指導計画の作成・環境構成・指導の実際について体験を通して学び、反省と評価を繰り返しながら、保育所保育の実際を総合的に学ぶ。	1.保育実習Ⅰの学びを活かして、保育所保育の基本を理解する				◎	○			
			2.乳幼児が自発的な活動を行うための環境構成及び援助の在り方を学ぶ。					○		◎	
			3.個性・特徴を理解した上で、計画の立案や活用方法を学び、保育活動を実践する。						○	◎	
			4.家庭や地域と連携を図りながら、保育に携わる保育所の実態に触れる。					○		◎	
			5.修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、保育士としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・児童観を持つようになる。						○	◎	
	保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰの経験や学びを活かして、保育所保育の基本、園児の実情に応じた保育士の援助や環境構成の在り方、立案・実践の方法などを総合的に理解することで、保育実習Ⅱの目的や意義を学ぶことをねらいとする。加えて、実習の心構えや望ましい実習態度についても学習する。また、実習終了後に本実習を振り返ると同時に2年間の実習成果と自己課題を認識することも併せてねらいとする。	1. 保育実習Ⅱの意義・目的・内容を理解し、自己課題を明確化する。			○				◎	
			2. 実習における援助・実践の方法及び心構えを主体的に取り組み理解する。			◎			○		
			3. 実習後の総括及び自己評価を通して、2年間の実習を振り返り自己省察する。						○		◎